

国語 第5学年 資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう 自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校の国語の授業づくりを手伝う役です。この後に続く「固有種が教えてくれること／自然環境を守るために（第5学年）」の学習指導案を、私の学級に合わせて直してください。

先に、次の五つを一つずつ質問し、私の答えを待ってから次の質問に進んでください。まとめて聞かないでください。

一、学級の人数と、ペアやグループの組み方。

二、既習のこと。これまでに読んだ説明的な文章と、要旨、段落相互の関係、図表やグラフの読み方をどこまで学習してきたか。社会科や総合的な学習の時間で資料を使って調べたことがあるか。

三、この学級の子どもの実態。長い文章を読むのが苦手な子、グラフの読み方が苦手な子、書くのが苦手な子などの実態。

四、この単元に使える時間数と、研究授業にする時間（何時間目か）。

五、使える道具。一人一台の端末があるか、表計算ソフトや大型画面が使えるか、学校図書館の資料はそろっているか。

五つの答えがそろったら、学習指導案を次の決まりで直してください。

学習指導要領の文言、評価規準の文言と文末は変えない。

教科書の本文と資料は引用しない。資料の番号や中身を書く所は「先生が教科書から書き入れる」と書く。

時間数は私が答えた数に合わせ、削ったり足したりした時間がどれかを一覧にする。読むことと書くことの時間の割り振りも一覧にする。

本時の展開は、人数と道具に合わせて、活動の形（一人・ペア・グループ・全体）と使う物を書き直す。

つまりきへの手当ては、私が答えた実態に合わせて具体的に書き直す。

直した所の一覧を最後に付け、どの答えを根拠に直したかを一行ずつ書く。

文章は先生がそのまま使える言い方にし、比喻や決まり文句を使わない。

出力は、学習指導案と同じ見出しの順で全文を出してください。

直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

———ここから直す対象の学習指導案———

第5学年 国語科学習指導案

1 単元名「資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう」 教材名「固有種が教えてくれること（今泉忠明）／自然環境を守るために」

2 単元の目標

原因と結果など情報と情報との関係について理解する（(2)ア）。目的をもって、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりする（C(1)ウ）。引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する（B(1)エ）。資料の効果を粘り強く考え、進んで資料を用いて思いや考えを伝え合おうとする（学年の目標(3)）。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①原因と結果など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア）

〔思考・判断・表現〕①「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。（C(1)ウ）

〔思考・判断・表現〕②「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（B(1)エ）

〔主体的に学習に取り組む態度〕①粘り強く、文章と図表などを結び付けて資料を用いた効果を考え、学習の見通しをもって、資料を用いて自然環境を守るための考えを書こうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

本教材は、動物学者の今泉忠明さんが、日本にすむ固有種を取り上げ、日本列島の成り立ちや環境と結び付けて説明し、固有種がすむ環境を守ることについての考えを述べた文章である。本文に加えて、表やグラフ、地図、写真などの資料がいくつも添えられ、文章のどこを資料が示しているかを結び付けて読むことで、書き手の考えの根拠がはっきりする。学習指導要領第5学年及び第6学年のC(1)ウ「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること」をそのまま働かせられる教材であり、第3の3(3)の「説明的な文章については、適宜、図表や写真などを含むものを取り上げること」にも当たる。生き物の数が変わった原因と結果を述べた所もあり、〔知識及び技能〕(2)アの学習とも結び付く。読んで学んだ資料の使い方を、書くことの教材「自然環境を守るために」で、資料を用いて自分の考えを書く学習にいかす(B(1)エ)。子どもは第4学年までに、段落相互の關係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との關係を捉える学習をしてきた(〔第3学年及び第4学年〕C(1)ア)。この単元で身に付けた、資料と文章を結び付けて読み、資料を用いて書く力は、第6学年の説明的な文章や、社会科・理科で資料を読み取ってまとめる学習にもいかせる。

(2) 児童について(学級の実態を書く)

(3) 指導について

指導に当たっては、次の三つを大切にする。一つ目に、資料を眺めるだけで終わらず、どの段落のどの文を示しているかを線で結ばせる。資料ごとに、文章と結び付けた表(資料の番号・種類・示している段落・分かること)を作り、単元を通して使う。二つ目に、資料の効果を考える時は、その資料が無い場合と比べる。数を比べられる、変化が分かる、場所が分かる、様子が分かるなど、効果を言葉にしておき、書く時の手がかりにする。三つ目に、書く時は、伝えたい考えを先に決め、その根拠になる資料を選ばせる。資料を集めることが目的にならないようにする。本時のワークシートは、資料と文章を結び付け、無い場合と比べて効果の一つ書いている物を「おおむね満足できる」状況、書き手の考えの根拠として資料がどう働いているかまで書いている物を「十分満足できる」状況の目安にする。

5 指導と評価の計画(全10時間)

第1次 第1時：○題名と資料だけを見て、どんな内容かを予想する。○全文を読み、初めの感想を書く。○単元の課題「今泉さんが資料を用いた効果を考え、資料を用いて、自然環境を守るための考えを書こう」と学習の見通しをもつ。 評価：態①(見通しの記述)

第2次 第2時：○文章を初め・中・終わりに分け、事実を述べた所と書き手の考えを述べた所を区別して、要旨をまとめる。

第2次 第3時：○資料ごとに、どの段落のどの文と結び付いているかを確かめ、「資料と文章の対応表」を作る。○生き物の数の変化とその原因を述べた所を見付け、原因と結果を矢印で結ぶ。 評価：知①(対応表・ノート)

第2次 第4時(本時)：○資料が無い場合と比べて、書き手が資料を用いた効果を考え、説明する。 評価：思①(ワークシート・発言)

第2次 第5時：○コラム「統計資料の読み方」で、グラフの目盛りや単位、出典の読み方を確かめる。○資料の効果について考えたことをまとめ、書く時に使いたい資料の使い方を選ぶ。 評価：知①(ノート)

第3次 第6時：○自然環境を守るために伝えたい考えを決め、本や新聞、統計資料などから材料を集める。

第3次 第7時：○集めた材料を分類したり関係付けたりして、考えと根拠を決め、どこにどの資料を置くかを考えて構成を立てる。

第3次 第8時：○資料を用い、引用の仕方と出典の書き方に気を付けて文章を書く。 評価：思②(文章)

第3次 第9時：○書いた文章を読み返し、文章と資料が結び付いているかを確かめて書き直す。 評価：思②(文章) 態①(文章の見直し)

第3次 第10時：○グループで文章を読み合い、資料の使い方のよい所を伝え合う。○学習を振り返る。 評価：態①(振り返り)

6 本時の指導 (4/10)

(1) 本時の目標

書き手が文章の中で資料を用いた効果を、資料が無い場合と比べながら文章と資料を結び付けて考え、説明できる。(C(1)ウ)

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：1 前時に作った「資料と文章の対応表」を見て、資料ごとに結び付く段落を確かめる。

2 本時のめあてをつかむ。

○「今泉さんは、なぜ文章だけで説明せずに、資料を付けたのでしょうか」

【めあて】筆者が資料を用いたことで、読む人にどんな効果があるかを考えよう。

予想される児童の反応：・文章だけだと、数の違いがつかみにくいから。

・写真があると、どんな動物か見当がつくから。

指導上の留意点：・対応表を拡大して黒板に貼る。

・資料の番号と中身は、使う教科書で先生が確かめておく。

【展開】

学習活動：3 先生が一つの資料を隠して、その資料と結び付く段落を読む。次に資料を示し、ある場合と比べる。

○「この資料がないと、読む人にとって何がつかみにくくなりますか」

4 一人で、自分が選んだ資料について、効果をワークシートに書く。

(型)「資料……は、……段落の……を、……で示している。この資料があることで、読む人は……が分かる。資料がないと……」

5 同じ資料を選んだ人どうしのグループで考えを比べる。その後、違う資料を選んだ人とペアで伝え合う。

6 全体で、効果を仲間分けする。

○「効果を仲間分けすると、どんな種類がありますか」

○「資料は、今泉さんの考えとどう結び付いていますか」

予想される児童の反応：・表やグラフがあると、数の大きさや違いを比べられる。

・グラフがあると、数が増えたり減ったりした変化が見える。

・地図や図があると、場所や、土地の移り変わりが思い浮かぶ。

・写真があると、見たことのない動物の様子が伝わる。

・どの資料も、今泉さんの考えの根拠になる事実を、読む人が確かめられるようにしている。

・資料が先にあると、読む人が興味をもつ。

指導上の留意点：・資料を隠して読む時は、本文の言葉だけで思い浮かべたことを一度言わせてから、資料を示す。

・ワークシートを書けない子には、対応表で結んだ段落と一緒に読み、「この文の、どの言葉を資料が示しているか」と聞く。

・「分かりやすくなる」で終わる子には、「何が」「どのように」伝わるのかを聞き返す。

・早く書けた子には、資料の置き場所(文章の前か後か)や、資料どうしの組み合わせの効果を考えさせる。

・仲間分けで出た言葉(比べられる・変化が見える・場所が分かる・様子が伝わる)は、書く時に使えるように掲示に残す。

・グラフの読み違いが出たら、次時のコラムで目盛りと単位を確かめることを伝える。

評価：思① 文章と図表などを結び付けて、論の進め方について考えている。(ワークシート・発言)

【まとめ】

学習活動：7 学習をまとめる。

【まとめ】資料は、文章だけでは伝わりにくい数の違いや変化、場所、様子を示し、筆者の考えの根拠を読む人が確かめられるようにしている。

8 振り返りを書く。

予想される児童の反応：・自分が書く時も、考えの根拠になる資料を選びたい。

指導上の留意点：・まとめは子どもの言葉を使い、黒板の仲間分けと結ぶ。

・振り返りは「資料の効果で考えたこと」と「自分が書く時に使いたい資料の使い方」の二つで書かせる。

（３）板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に日付、題名、めあて。その左に「資料と文章の対応表」（縦に資料の番号、横に資料の種類・結び付く段落・分かること）。中ほどに、資料を隠した場合と示した場合の比べ（子どもの言葉）。その左に、効果の仲間分け（比べられる・変化が見える・場所が分かる・様子が伝わる）を四つの枠で示し、資料の番号を貼り分ける。その下に、資料と書き手の考えのつながりを矢印で示す。左端にまとめと、振り返りの二つの観点。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)

https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

